

ピアノからのお知らせ

1月、2月、3月に引き続き、ピアノで『お料理教室』を実施いたします。皆様のご参加をお待ちしております！

4月27日(日)「春爛漫アサリと菜の花のスパゲティーニ」

春の食材ならではの香りとみずみずしさを満喫しましょう。
 ・キッシュロレーヌ
 ・あさりと菜の花のスパゲティーニ
 ・生姜のアイスクリーム

5月25日(日)「初がつおのたたきサラダ仕立て」

この季節ならではの切れのある鯉の味を楽しみましょう。魚のおろし方も紹介します。
 ・かつおのたたきサラダ仕立て
 ・若鶏のレモン煮
 ・赤いフルーツのスープ

6月29日(日)「香り米と鴨のローストクレオール風」

簡単に言うと「鴨の炊き込みご飯」しょう油が隠し味のソース、これがやみつきです。
 ・魚介のマリネ
 ・香り米と鴨のローストクレオール風
 ・グレープフルーツのムース

クルマでお送りします。



クルマでお迎えします。

レストラン ピアノでは、お客様への感謝をこめ、車での送迎サービスを行います。予約されたお客様には、最寄の駅でお待ちいただければ、ピアノ専用車でお迎えいたします。また、お帰りの際は、最寄の駅までお送りさせていただきます。どうぞご利用ください。
送迎エリア(各鉄道駅を待機拠点とします)
 駅名：今宮駅、大国町駅、花園町駅、天下茶屋駅
 送迎時間：18:30~21:30
 ※時間はご相談に応じます
ご予約・お問合せ
 06-6568-3443 (予約担当：安本)

お誕生日・結婚記念日・合コン・オフ会・同窓会...
 少人数から30名様まで各種パーティー承ります。

ご予約・お問合せ
 パン&レストランピアノ 06-6568-3443
 大阪市西成区長橋3-7-28 プランコート1F

営業時間
 ランチタイム : 11:00~14:00
 ディナータイム: 17:00~21:00(L.O.)
 パンショップ : 8:00~20:00



たのしみ

発行日 2008年 4月1日
 創刊日 2007年 1月1日
 発行 株式会社ナイス
 発行人 代表取締役 富田一幸
 住所 大阪市西成区長橋3-6-33
 電話 06-6563-1156
 info@nice.ne.jp http://www.nice.ne.jp/

第16号



今月のアート

ライオンさんの壁画

今から33年前にくらし応援室の佐々木さんがデザインした壁画です
 (この記事はブログでも紹介しています、ナイスのブログもよろしく)

人・街・仕事づくり

検索

N=NICE VIEW《ナイスの視線》で、A=ART《芸術》&AMUSE《楽しませる》や、
 V=VENTURE《冒険する》&VOICE《声》を、I=ISSUE《発行物》でお届けします。

風琴に似た、つまりアコーディオンかオルガンのような音色で、ギターやベース、果てはパーカッションを操り、ブンジャカ、ブンジャカとブギのリズムで、telegram san telegram san...と始まる「テレグラム・サム」は72年の大ヒットとなった。当時はロックンロールというより重厚なロックが全盛で、内省自省を語り、楽曲の繰り返しのリフや長演奏が主流であった。おんな・子ども風ポップ歌謡など



hidari maki 二の逸曲

アナログの逆襲 その11

T.レックス「テレグラム・サム」 アルバム「スライダー」から

お呼びではなく、マッチョな長髪ロックカーが跋扈していたのである。そんな頃「テレグラム・サム」は、T.レックス3枚目のアルバムB面1曲目に挿入され、音楽の世界を変えた。
 初期の「ゲット・イット・オン」以来、T.レックスはどれも皆おんなじちゃうんと思うほど曲がよく似ていた。しかしあのブンジャカ、ブンジャカが、何ともいえない毒と高揚の蜜をバラまき、従来にはないロックンロールの陶酔に誘うわけだから、おんな子どもだけではなく、ついには世界を翼下におさめたのだ。
 T.レックスの容姿を初めて知ったのは、当時出はじめたTVのビデオ映像であった。彼らは、それまでのハード・ロックやプログレシブ・ロックとは別に、「グラム・ロック」とカテゴライズされ、メディアへの露出度も高かった。マーク・ボランのステージ衣装は、ド派手で金びかに見えた(その

頃は白黒TVしかなかった)。その上白塗りでの病的、退廃的化粧をほどこし(今様ジョニー・デップかな)、何よりユニセックス・ファッションと、非日常を漂わせたスタイルだからこそメディア受けも、ライブ演奏が活動の主体というのも理解できた。
 その後僕は、「グラム・ロック」のグラムは、「グラム」(文法)ではない!とありグラマラスの意であることを知った。なるほど、それならすぐわかる。ストーンズのミックは以前からグラムだし、デヴィッド・ボウイをはじめロキシー・ミュージック、そしてクイーンらに引き継がれた「グラム・ロック」のスターは皆プリティッシュだった。
 T.レックスはグラムを発掘し、その後のパンク・ロックの勃興となる原動力を担ったに違いない。

hidari maki

ボクが「就労支援会社をつくる」と啖呵を切って、かれこれ半年を過ぎた。ようやく第一号の就労支援会社、有限責任事業組合Wacell LP(ワック)が、五月に秋の茶屋に、花屋を開店することになった。この会社は、ホームレスやニート等を社員として迎えて、就労を支援する会社だ。あいりん地区のど真ん中に花屋...、誰もが耳を疑い、苦笑いをしてしまう。しかし、ボク達はいたって真面目だ。ホームレスの人たちが、リヤカーに花を積んで、例えば、風呂屋や住宅、銀行の前などに露店を出すことも考えている。読者は、駅頭で「ビッグイシュー」という雑誌を売っている人を見たことがあるだろうか? あれの花屋版というわけだ。これ、あたる!とボクは酔っているが、いかなものだろうか?

このアイデア、実は、西成区の古参の社会福祉法人・自強館から盗んだというか、合い呼吸したものだ。気づいてる人がいるだろうか? 自強館さんは、自分たちの施設の壁などに花のプランターを設置している。さりげなく、花いっぱいであいりん地区にしたいと呼びかけているのだ。ボク達は、あうんの呼吸で、「こんなあったらいいなあ」とささやき合った。その結果が花屋だった。
 ボクも、五〇の峠を超えたら、ちょっとは肩の力が抜けてきた。社会問題のコツは、流れを変える、そんな一石を投じることだ。社会運動は、あれこれ講釈をしたがる傾向があるが、期待されているのは、そんなことじゃない。この歳になって、やっとわかるようになった。ゴルフのクラブも、こんな風

に振れたらいいのだが...。ボクは、応援している民主党にも、肩の力を抜いて、そんな一石を投じたらどうだろうと、今度、ボクと同年代の松岡徹参議院議員に進言してみようつもりだ。
 ちなみに、あいりん地区のお花屋さん、いま、お店の名前を募集している。
 株ナイス代表取締役 富田一幸



自強館の花のプランター

ボクの二の逸曲 ビッグイシューの花屋版ってわかる?

うららかに晴れた日曜日、此花区にあるUSJ玄関口まで、渡し舟を乗り継いで自転車旅行をしてきました。出発点はもちろん西成。なび 14号でも大阪の渡し舟をご紹介しますね。なびと共にブログ「まちかど再発見」にも詳細が書かれています。今回は渡し舟の旅ながら、途中安治川にある川底トンネルを利用して対岸にたどり、そこから一直線にUSJをめざしました。今日は川底トンネルについてのお話を聞いてください。

大阪ドームの北、千代崎の通りをまっすぐ地下鉄中央線の橋梁を越え、しばらく行くとその突き当りがトンネル入り口になります。正式な名称は安治川隧道。隧道とはトンネルのこと。西区の九条と此花西九条の間に横たわる安治川の対岸どうしをトン

川底 安治川のトンネル

ルで結びます。水深約 15m、川底の幅 80mを歩きます。

なんでもないビルの一隅にエレベータが設けられ、続々と人や自転車が集まってきました。上昇してきたエレベータが開くと、対岸からのお客たちがどつとあふれ、対岸に行くお客たちと交代するのです。エレベータボックスは1.8×2.3m、自転車と人は譲り合うように乗車しています。川底の通路幅は2mほどで、行き交うのがやっとといった雰囲気です。行き着くと今度は対岸へのエレベータが待っていて、西九条駅前につながる扉が開きました。こちらはまだ特徴のないビルですが、都会のひと隅に不思議な空間がポッカリとあります。



天保山の渡し

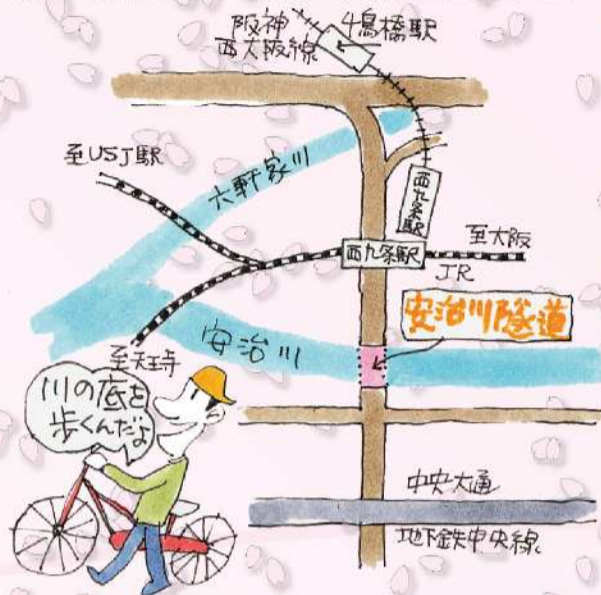


安治川隧道エレベータ前

* 安治川は、もともと源兵衛渡しなど数ヶ所の渡し舟があったのですが、航行する船便が頻繁になったため、9年の歳月をかけてトンネルが開通したそうです。橋を作る費用よりも安価であったのかも知れません。



川底歩道



今月のレシピ

今月は、2月のピアンのお料理教室で紹介した一品です。

洋風チラシ寿司風 お米のサラダ

材料 (2人分)

米 (イタリア米)	80g	エビ	100cc
フルーツマト	1個	ウクラ	300cc
黒オリーブ	10粒	レモンドレッシング	適量
緑オリーブ	8粒	レモン汁	適量
ケッパー	20粒	オリーブオイル	適量
シブレット	8g	ドライトマトのだし汁	適量
パプリカ 赤・黄	各1/5個	塩	適量
魚介類	お好み	白コショウ	適量
スモークサーモン		E.V.オリーブオイル	適量
ホタテ			
タコ			



レモンドレッシング分量を合わせて混ぜ、乳化させる。ドライトマトのだし汁ドライトマトを1~2時間水に浸けて濾し器で濾し、その汁を火にかけて約1/3量に煮詰める。



作り方

1. 米を1%の塩を加えたお湯で芯が残る程度に茹でる。茹で上がった後氷水で一気に冷まし水気をよく切って、塩・コショウ・E.V.オリーブオイルで和える。
2. フルーツマトは皮を湯むきして横に半割りにし、種と中のやわらかい部分を取り除いてさいの目に切る。
3. パプリカはさいの目に切り、塩茹でする。
4. 黒オリーブは粗みじんに切る。
5. 1の米に2・3・4、緑オリーブ、ケッパー。細かく刻んだシブレットを加え、レモンドレッシングで味を調える。
6. 魚介類は薄くスライスして塩・コショウをし、ドライトマトのだし汁とE.V.オリーブオイルを表面に塗る。
7. 5を皿に盛り、6を彩りよく盛り付けて完成。



工程3 パプリカのさいの目イメージ



工程6 魚介類イメージ

ウソのようなホンマの話...

韓国で4月14日は「ブラックデー」と呼ばれています。「ブラックデー」と聞くと何だか不吉で、怖い印象を受けてしまいそうですが、実はとっても面白いイベントなのです。この日は男性でも女性でも恋人のいない人が、もともとは中華料理でありながら、韓国風にアレンジされた麺料理のチャジャン麺を食べて寂しさを癒す(?)日とされています。



黒い服を着て外に出て、黒い服をきた人と会ってチャジャン麺を食べます。この日は服をはじめ靴、靴下、アクセサリーなどすべて黒色にしなければいけません。もちろん食べるものはチャジャン麺、カフェに行ったらブラックコーヒーを飲まなければなりません。でもね、この日、運が良ければチャジャン麺とブラックコーヒーを一緒にするあいだに恋人になることもたまにあるそうですよ! 「ブラック」と言われる由来は「チャジャン麺の色が黒いから」、「『ホワイトデー』の『ホワイト』に対抗して」など諸説ありますが、ウソのようなホンマにあるこのイベントは今ではすっかり韓国の若者の間で浸透してきています。

そんなわけで、30歳過ぎて彼女もいないりゃ、いまいち芽えない、なび編集部Kを連れ立って、ブラックデーを体験取材です。場所は、日本橋の韓国語の飛び交う某中華料理屋。Kの「なんでこんなことしなきゃいけないんですか」の一言も聞こえなかったことにして、チャジャン麺を注文。お前みたいなのやつなんざあ、これでも喰らってやがれとばかりにチャジャン麺登場。何故か嬉しそうにチャジャン麺を食べるK。馬鹿じゃないのと罵声を浴びせ店を後にしました。来年もチャジャン麺食べるのか? Kよ。



4月のおばさん! エイプリル フール?

4月1日はエイプリル フールですね。皆さんも大なり小なり、近しい人に嘘をついた記憶があるかと思いますが、このエイプリル フール (April Fool's Day) とは、毎年4月1日に、人をからかうような「害のない嘘をついてもいい」という風習のことで、当日の午前中がその対象となっているそうです。

ところで、エイプリルフールの起源について、皆さんはご存知でしょうか? 実は、エイプリルフールの起源は諸説あるのですが、いつ、どこでこの習慣が始まったかはわかっておりません。

日本でエイプリルフールが広まったのは「パチンコの負けをごまかすためにこの日にスリにあったと嘘をついた者がいた」とする説がありますが、実はパチンコのない時代からこの日に嘘をつく風習が記録されていて、これ自体がエイプリルフールの可能性もあるそうです。もうなんだかわかりません。ちなみに、エイプリルフールは「四月馬鹿(四月バカ)」とも呼ばれていて、「日ごろの不義理を詫言る日」だったそうです。一体、何をどうしたら、現在のようない「日ごろやらないような不義理(嘘をつく)を行うための日」に変わってしまったのでしょうか。

イスラム教においてはこの習慣はコーランに著しく反しているため、強く禁止されているそうです。僕も、イスラム教を見習って、4月1日はおとなしくしていようと思います。なんせ、人を小バカにして楽しむ悪趣味は持ち合わせておりませんものだから。それでは。 <K>

ウツギの月

ウツギの月

西成とぞっくり体験

大阪女性大会という集会有り、西成支部女性部で3月22日(土) 23日(日)に名古屋の平野支部との交流に行ってきた。そこはナント! 西成とぞっくり! 婦人靴の職人さんがたくさん居て、靴の学校もあり、レンタルの工場もあり... 初めて行った場所なのに懐かしい感じがしました...

「ぞっくり」になった兄弟と再会したように「ぞっくり」になった兄弟と再会したように、平野支部の問題や、課題を聞きいた後、研修ということで、ベビースーツ作りの体験をしました。早く、美しく仕上げなければお金にならない、という職人さんの苦労を知ってもらいたいという趣旨で実施しているとのこと。革のパーツに紐を通し、約1時間でこんなに可愛いベビースーツが出来ました。とても苦労しましたが、靴職人さんの苦労がぞっくりだけわかりました。



ウンチ

飼い主の心得 「挨拶・小さな出逢い編」

私は、この春で犬を飼いはじめて四年になります。降り返ってみると、色々なことがありました。その中で、今日は小さな出逢いについて書いてみました。

犬と散歩していると、同じように犬と散歩している人に出逢う。顔の知っている人、知らない人様々が、すれ違つたときに「こんにちは」とお互い声をかけている。それがなんとも自然である。犬も同様、お互い近づきにおいを嗅ぎあっている。「こんにちは」と言っているのだろうか... 名前もこの人かもわからないのに、「こんにちは」と言葉を交わしている自分にビックリもするが、その反対に優しい気持ちになれる。この四年間で、「こんにちは」で言葉を交わした人は数え切れない人数だとも思う。

